



明治大学法学部
2025年度 ケンブリッジ大学
夏期法学研修報告書











目次

教員挨拶 1
はじめに 2
ケンブリッジ大学について 3
コーパス・クリスティ・カレッジについて 4
スケジュール 5
School Life (6～17)
・PA 紹介 6
・PA からのメッセージ 7
・Jackie 先生からのメッセージ 8
・English for Legal Purpose 9
・English Law ..... 10~11
・参加者の声（English Law） 12
・Guest Lecture 13
・参加者の声（Guest Lectures） 14
・Court Visit 15
・Mock Trial （模擬裁判) 16
・PA Activity・Scavenger Hunt 17
Travel and dairy (18~26)
・ロンドントリップ ..... 18～19
・寮の設備 20
・Formal Dinner・学食 21
・大学周辺情報 22
・留学生の１日（Week Day） 23
・留学生の１日（Day Off） 24
・週末旅行記 25
・お勧めレストラン 26
Information (27~35)
・交通機関 27
・トラブル対応 28
・事前学習での学び・感想 29
・参加したきっかけ 30
・次年度参加者に向けて ..... 31～32
・フォトスペース ..... 33～35
2025 年度研修実施概要 36
編集後記 37

教員挨拶

外国の法文化に触れ視野を広げよう！

法学部長　長坂　純

法学部では、毎年夏休みを利用し、ケンブリッジ大学夏期法学研修を行っています。国際化・多様化が進む現代において、日本法とは異なる外国法に触れ、世界における法の多様性を理解することにより、改めて法律学を学ぶ意義を考えてもらいたいと思います。

研修生は、事前に英語能力やイギリス法の基礎知識の習得のための留学基礎講座を受講します。そして、研修では、ケンブリッジ大学の教員から直接イギリス法・ＥＵ法、国際法等の授業を受け、また、法律に関する授業の理解を助けるための法律英語の授業のほか、法律専門家によるゲスト・レクチャーやケンブリッジ大学の学生との議論の機会も多く設けられています。このように、現地において直接外国法に触れることにより、法律学の奥深さに誘発され、多様な法の一つとして日本法を学ぶ姿勢が培われることが期待されます。

さらに、本プログラムでは、授業だけではなく、ロンドンへのフィールドトリップや伝統と歴史を体現するかのようなカレッジでの寮生活、現地の法学部生との交流など貴重な体験ができます。

国際化・多様化が進む現代社会においては、日常とは違うものを知り、それに触れ、理解しようとすることが重要です。そのような姿勢は、論理的思考（リーガル・マインド）を習得するために法律学を学ぶための視野を広げることにもなります。ここに外国の法文化に触れる意義が認められるでしょうし、卒業後の研修生の将来に役立つことを期待しています。

Continuing Your Journey of Learning

法学部専任教授　石田　倫識

Welcome back from the Cambridge University Summer Law Program. I am very glad that you all returned safely and were able to complete this valuable experience.

I hope that the curiosity and motivation you developed during this program will continue to guide your studies in Japan. Keep exploring new ideas, learning about different legal systems, and engaging with diverse cultures. Such experiences will broaden your perspective and help you understand not only foreign laws and societies, but also your own in new ways.

The Cambridge program is just one step in your journey. By staying open to new experiences and continuing to challenge yourselves, you can build on what you have learned and continue to grow both academically and personally.

Keep challenging yourselves and enjoy the journey ahead!

はじめに

こんにちは！私たちは 2025 年度ケンブリッジ大学夏期法学研修の参加者です。

本研修では、夏休みの約 1 ヶ月間イギリスのケンブリッジ大学に滞在し、イギリス法について学びます。様々な講義やフィールドトリップ、模擬裁判等を通して、普段の大学での学びとは異なる角度から法律への理解を深めることができます。また、授業や生活の大半をともにするプログラムアシスタント(PA)に加えて、先生方や実務家の方々とお話しする機会もあり、新鮮かつ刺激的な時間を過ごすことができます。

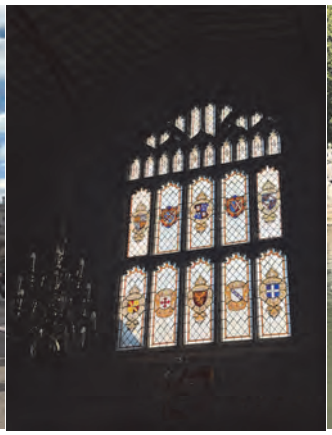
本冊子は、研修の具体的な内容や事前学習について、寮や大学周辺の情報など、研修の雰囲気をできるだけお伝えできるような内容で構成しています。本冊子が、研修への参加を検討されている方や興味がある方の参考になれば、また、参加が決定した方にとって研修のイメージを掴むための一助となれば幸いです。



ケンブリッジ大学について

■ケンブリッジについて

イギリスのイングランド東部に位置するケンブリッジ(Cambridge)は、オックスフォードと並んで世界的に有名な大学都市です。ケンブリッジという名前は、市内を流れるケム川に架かる橋を意味し、市内のいたるところで小舟(パント)に乗って川下り(パンティング)を楽しむ人々の姿を目にします。中世の雰囲気を残す石畳の街並みに、ケンブリッジ大学のカレッジや教会、様々な飲食店やマーケット、お土産屋さんなどが立ち並び、連日多くの観光客が訪れています。



■ケンブリッジ大学について

ケンブリッジ大学は、13 世紀にオックスフォード大学から分離した大学で、独自のカレッジ制度(学寮制度)を背景に、世界有数の名門大学としての地位を確立してきました。創立年は公式には 1209 年とされ、実に 800 年以上の歴史を誇ります。現在のケンブリッジ大学は 31 の独立したカレッジを有し、全学生がいずれかのカレッジに所属しています。進化論提唱者のチャールズ・ダーウィンや、万有引力の法則の発見者であるアイザック・ニュートンなど、100 名以上のノーベル賞受賞者や各分野における数々の著名人を輩出しています。現在も 130 を超える国から優秀な学生が集まり、広大な敷地で世界最高水準の研究・教育が行われています。

各カレッジでは創立当時から残る建物が今も使用されており、キャンパス内に足を踏み入れると、その歴史の長さを肌で感じることができます。また、コーパス・クリスティ・カレッジから徒歩圏内には複数のカレッジがあり、建物や規模、雰囲気などがそれぞれ異なっているので、訪れてみるのも楽しいでしょう。

コーパス・クリスティ・カレッジについて

コーパス・クリスティ・カレッジは、ケンブリッジ大学を構成するカレッジの一つであり、大学全体の中でも特に長い歴史と独自の伝統を有しています。1352 年、ケンブリッジ市民によって設立された「コーパス・クリスティ同業組合（Guild of Corpus Christi)」と「聖母マリア同業組合（Guild of the Blessed Virgin Mary)」により創立されたこのカレッジは、ケンブリッジ大学の中で唯一、市民によって設立されたカレッジとして知られています。そのため、創設以来、学問のみならず地域社会との結びつきを大切にしてきたという特徴を持っています。また、同大学においては第 6 番目に古いカレッジにあたります。学生数は学部生が約 300 名、大学院生が約 200 名と比較的小規模であり、伝統的なカレッジの中ではピーターハウス（Peterhouse）に次いで 2 番目に学生数が少ないカレッジです。こうした規模の小ささが、学生と教員との距離の近さや温かなコミュニティを生み出しており、ケンブリッジ大学の中でも特に親密で落ち着いた学びの環境となっています。



正門をくぐると、まず目に飛び込んでくるのはカレッジの象徴ともいえる教会と、手入れの行き届いた広々とした芝生（グレート・コートのローン）です。その荘厳で静かな佇まいは、長い歴史と伝統を感じさせるとともに、訪れる者に深い印象を与えます。



こちらの Old Court に入ると、中庭は学生に開放されており、パーティーなどの催しが行われるほか、卓球やビリヤードなどを備えた娯楽室も併設されています。歴史的建造物に囲まれたこの空間は、静寂でありながらも厳かな雰囲気を漂わせています。

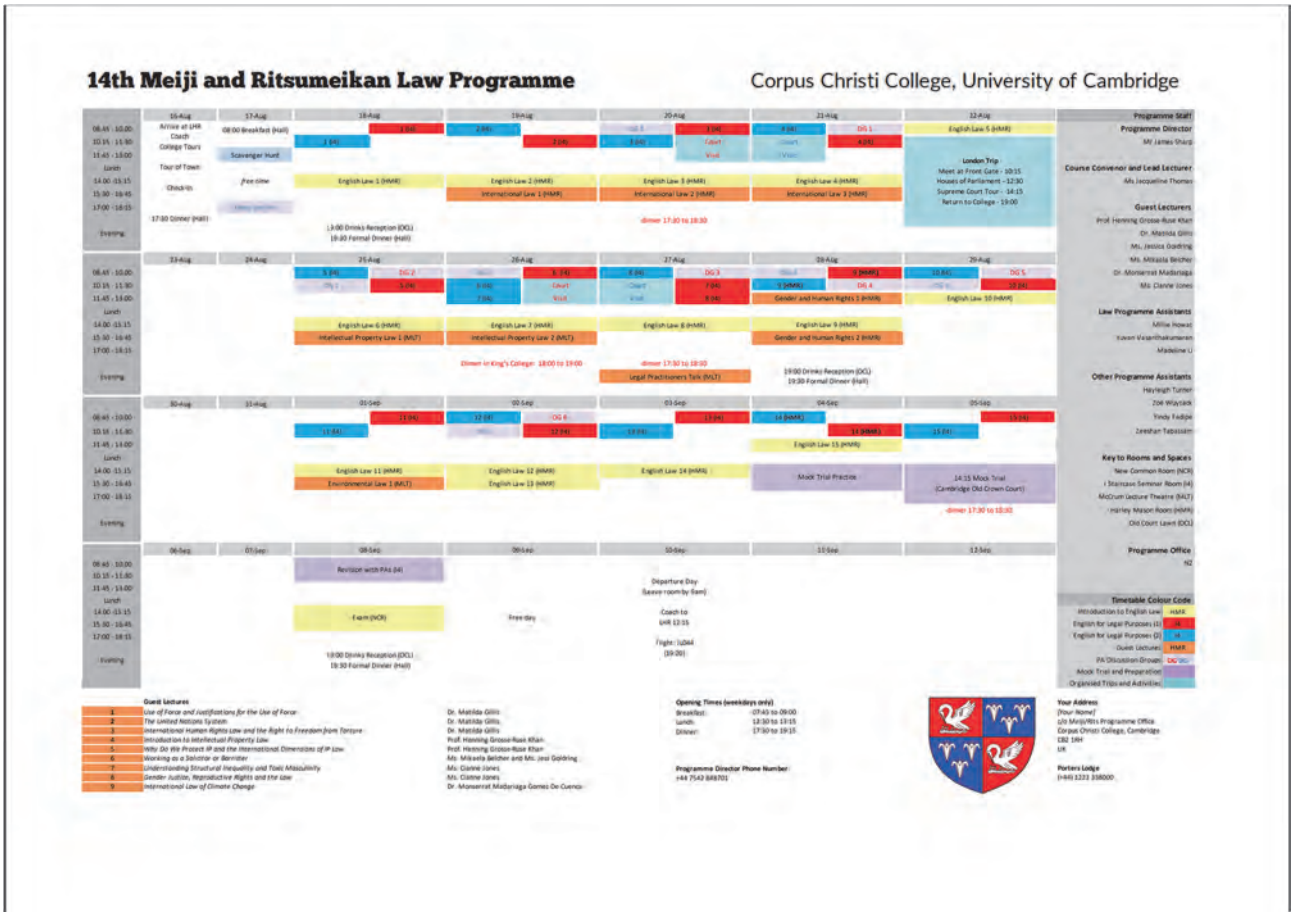


チャペルでは毎日礼拝が行われ、週に三回は聖歌隊による合唱礼拝も実施されています。聖歌隊はコーパス・クリスティ・カレッジおよび他カレッジの学生で構成され、国内外で演奏活動を行っています。

カレッジ内の食堂は、歴史的建築の一部として荘厳な雰囲気を持ち、高い天井と木の梁、そして壁に並ぶ肖像画が印象的です。研修中に行われるフォーマルディナーではガウンを着用して伝統的な食事を楽しむことができます。



スケジュール



研修では、授業は 1 コマ 75 分で構成されていました。そして、基本的に午前中には、学生がブルーグループとレッドグループに分かれて「English for Legal Purposes」と「PA Discussion Groups」に参加しました。午後には「Introduction to English Law」と「Guest Lectures」が行われました。また、平日には裁判所へ出向き、実際の法廷での審理を傍聴する機会もありました。「English for Legal Purposes」では、先生は法的なエッセイの書き方や適切な英語表現をディベートやゲームを通して学びました。「PA Discussion Groups」では、ゲスト講義の内容を PA とディスカッション形式で振り返り、難しい部分や理解しにくい点を丁寧に説明してもらいました。「Introduction to English Law」では、イギリスの法制度や法律の仕組みについて講義形式で学び、「Guest Lectures」では各分野の専門家による特別講義が行われました。また、現役の弁護士 2 名による講義もあり、イギリスの裁判制度や弁護士の役割について具体的な事例を交えて説明してくださいました。研修期間中には、週 1 回スーツやドレスを着て食事を楽しむ「Formal Dinner」があります。最終週に英語で行われる「Mock Trial（模擬裁判）」も参加しました。また、研修の最後には習得内容に基づいた試験も行われました。

そして、ケンブリッジに到着した初めの週末は「London Trip」に参加し、イギリスの議会と裁判所を見学し、法制度の仕組みを実地で学ぶことができました。以降の週末は自由行動となり、旅行やケンブリッジ市内の散策など、それぞれのペースで自由に過ごすことができました。

PA 紹介

PA(プログラムアシスタント)とは、私たちの留学生活をサポートしてくれるケンブリッジ大学の学生です。生活面から勉強面まであらゆるところで助けてくれます。難しいゲストレクチャーは、PA がわかりやすくまとめてくれるので理解を深めることができます。PA Discussion Group(DG)では、様々な角度から質問を投げかけ、多角的な考えを持てるように促してくれました。鍵を部屋に忘れてしまった時も助けてくれるのは PA です。自由時間に一緒に卓球をしてくれたり、パンティングをしたり、休みの日に一緒にカフェに来てくれたりしました。London trip や Court visit も手厚くサポートしてくれて、集大成であった模擬裁判は、PA のサポートがなければ、成功することはできませんでした。1 か月間たくさんの思い出を共有できた PA たちとの日々は宝物になりました。



Millie（ミリー）



Yuvan（ユヴァン）



Maddie（マディー）

PA からのメッセージ

■Millie

I had such a wonderful time being a PA this year. Getting to know each student and helping them individually achieve their goals was very rewarding. I enjoyed participating in the lectures which I found super interesting, and having insightful and collaborative discussions about the course material after the lectures. I also loved sharing all of my favorite places in Cambridge with the students and sharing lots of fun stories and experiences over mealtimes, ice cream and coffee trips! A highlight for me was the trip to London, where we took a lovely photo in front of Big Ben and learnt a lot from our trips to the Houses of Parliament and the Supreme Court!

■Yuvan

As programme assistant, my role was to help assist the students during their time in Cambridge. In practice, this meant helping them when they inevitably locked themselves out of their room and other fun side quests like punting.

I cannot praise the students enough for the hard work they put in. They worked harder than you would for a Cambridge degree (I would consider being made to go to more than two lectures a violation of my human rights) and always delivered enthusiasm and confidence. I'm especially proud of everyone's efforts in the mock trial, with special mention to my beloved winning prosecution team.

It was such a pleasure meeting everyone and seeing them all develop into more confident speakers. They made this an incredibly fun time and I just hope they enjoyed it as much as I did.

■Maddie

Hi, my name is Maddie and I helped on the Meiji Law Programme 2025! I am a law student in my second year of university, and I had so much fun being a Programme Assistant. It was really nice to see all of the students become more confident when they spoke, and to see them be very interested in studying law. I loved having chats with everyone and becoming friends with the students. The best memories I have from the Meiji Law Programme are walking to Granchester Meadows with many students, and watching 'The Summer I Turned Pretty' with some of the girls.

Jackie 先生からのメッセージ

■ Jackie 先生　(English Law の先生)

Each year, I have the privilege of meeting remarkable students through the Meiji University and Ritsumeikan University Law Programme, and this year was no exception. The group of students who joined us in August 2025 at Corpus Christi College, Cambridge brought with them a wonderful spirit of positivity and determination that was truly inspiring.
Each student's outlook and commitment to study during the programme left a lasting impression on all the team. Not only did they embrace every challenge and engage with the academic and cultural experience, but they also pushed themselves through moments of difficulty to emerge more confident. This year the achievements of all the students were a testament to their hard work and resilience and without doubt they were a credit to their universities and to the future of law.
I hope the 2025 Law Programme students not only carry forward the legal knowledge and confidence gained but that they also remain close to the friendships they formed during the programme and to the memories of their time in Cambridge.
As their Programme Convenor I look forward to seeing where their journeys will take them next.

Jackie



English for Legal Purposes

■授業の概要

本授業は、Jackie 先生によって毎朝実施される法律英語の授業であり、法律学の学習において必要とされる英語の理解力と表現力を高めることを目的としています。授業では、学生が将来的に国際的な法的議論や学術的な環境において自らの意見を的確に伝えられるよう、実践的な英語運用能力の養成を目指しています。受講生は赤組と青組の二つのグループに分かれ、各グループ十数名程度で授業が進められます。授業は全て英語で行われ、日常的に英語を使う環境の中で自然に思考し発言する力を身につけることができます。

■授業の実施形式

授業は毎回、5〜10 分程度のミニゲームから始まります。クイズ形式のアクティビティやペアワークなどを通して、楽しく英語に触れることができると同時に、クラスメートとの交流を深める機会にもなっています。このような導入により、学生はリラックスした雰囲気の中で積極的に英語を話す姿勢を身につけていきます。

授業の中心は少人数のグループディスカッションであり、さまざまなトピックについて学生同士が意見を述べ合います。扱われるテーマはイギリスにおける社会問題から国際的な課題まで幅広く設定されており、単に英語力を高めるだけでなく、論理的思考力や多角的な視点を養うことにもつながっています。意見の違いを尊重しながら議論を進める中で、新しい発見や考え方に出会うことが多く、他者の視点を通じて自分の理解をより深めることができます。

また、授業の一環として Academic Writing の基礎を学び、レポートに関する英語の書き方や論理構成の方法を身につけます。イギリス判例の読み方や要点整理の練習、依頼人と弁護士の会話を想定したロールプレイなども行われ、リーディング・ライティング・スピーキング・リスニングの四技能を総合的に伸ばすことができます。

時には Guest Lecture に関連する内容の予習が行われることもあり、専門的な英語に触れる貴重な機会となっています。課題として出されるライティングの宿題は負担が大きくありませんが、Jackie 先生が丁寧に添削し、具体的な改善点を示してくださいます。授業では「間違いを恐れずに発言する」ことが重視され、意見交換の中で視野を広げることができます。授業中や休憩時間でも先生は学生一人ひとりに親身に対応してくださり、安心して質問や相談ができる環境が整っています。

English Law

■English Law とは？

この授業は、イギリスの法制度全般を学ぶ授業です。講義では、イギリスの司法制度全体、不文憲法、イギリス法の法源、民事訴訟法・刑事訴訟法、契約法、陪審員制度といった基礎から、EU 法および EU の司法制度といった現代的なトピックまで幅広く学びます。具体的な判例も多数取り上げ、その法的背景や影響を考えることもあります。この講義の内容が最終テストの主な内容です。今年のテストは持ち込みが可能で、自分で取ったノートならなんでもＯＫという条件でした。テキストに直接書き込んだり、ＰＣにメモする人も多かったですが、試験前にもう一度ノートに書き写したり、まとめたりしなければならなくなるので、日本からノートやルーズリーフを持って行ってそちらにメモすることをおすすめします！

■授業内容紹介

授業は毎回、何らかのトピックについて進行されます。いくつかの内容をご紹介します。

▸ イギリスの統治制度

イギリスの司法構造がどのように成り立っているのかを学びます。成文の憲法典が存在しないイギリスでは、憲法の明文規定はほとんど登場しません。その代わり、判例や長年にわたる歴史的な慣行、事実に基づいて統治構造を理解していくのが大きな特徴です。

▸ 民事訴訟法と刑事訴訟法

実際の民事訴訟・刑事訴訟の手続について学びます。裁判所の種類、どんな裁判がどの裁判所に振り分けられるのか、上訴についてなど広く学ぶことができます。実際に Magistrates’ Court（治安判事裁判所）と Crown Court（刑事法院）で裁判を傍聴することができるので、学んだことを実際に見学できるよい機会になります。

▸ 陪審員制度

日本の裁判員制度との違いにも触れられます。模擬裁判でも陪審員の役割があるので、前述の裁判傍聴と合わせて English Law の授業は基礎を学ぶ授業として位置付けられています。

▸ EU 法

イギリス法に強い影響を与える EU の法律、裁判所、条約などについて扱います。EU 離脱前、離脱後の影響の変化や、BREXIT そのものについても触れられます。

▶ 裁判所制度

イギリスの裁判所制度は、日本のように明確な三審制があるわけではなく、独自の歴史的背景に基づいた多層的な構造を持っています。例えば、民事事件と刑事事件で異なる裁判所が存在し、さらに上訴の流れも日本とは大きく異なります。授業では、これらの違いを比較しながら、英国の司法制度の特徴やその成り立ちを理解します。また、London Trip では実際にイギリス最高裁判所（Supreme Court）を訪れる機会があり、歴史的な建物の中で法廷の雰囲気を体感できます。教科書で学んだ理論を、現地での見学を通して「実感」に変える貴重な経験となります。

▶ 不法行為

日本の民法における「不法行為（tort）」は、他人に損害を与えた場合にその責任を問う制度ですが、イギリスではこの分野が判例法を中心に発展してきた点が大きな特徴です。授業では、代表的な判例をもとに「過失（negligence）」や「損害（damage）」などの概念がどのように形成されてきたかを学びます。さらに、イギリスの不法行為法が社会の変化に応じて柔軟に発展してきた背景も理解することで、判例法のダイナミズムを実感できます。判例の事例をもとにディスカッションを行うため、法的思考力や論理的な分析力も養うことができます。

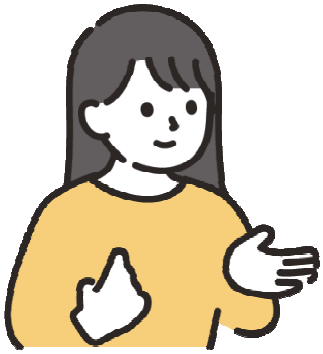
▶ 法律専門職

イギリスの法律専門職は、日本とは大きく異なる制度を持っています。特に、法廷での弁論を専門とする「バリスター（Barrister）」と、依頼者との相談や訴訟準備などを担当する「ソリシター（Solicitor）」という二つの職種に分かれているのが特徴です。また、検察官もこれらの資格を持つ弁護士が担当する場合が多く、法律家の役割が柔軟に重なり合っています。授業では、こうした制度の成り立ちや職務の違いを学ぶだけでなく、実際にバリスターやソリシターの方を招いたゲストレクチャーも行われます。現場で活躍する専門家の生の声を聞くことで、イギリスの法曹界のリアルな姿を知ることができ、将来のキャリアについても考えるきっかけとなります。

▶ 契約法

イギリス法において「契約法（Contract Law）」は、社会生活や経済活動の基盤を支える最も重要な分野の一つです。そのため、全授業を通じて特に重点的に学びます。授業では、契約が成立するための要件（申込と承諾、対価、意思の一致など）や、契約違反が生じた場合の救済方法について、実際の判例を通して理解を深めていきます。また、授業の後半では班ごとに代表的な判例をもとに短い劇を作成し、発表するアクティビティがあります。判例をわかりやすく演じるために内容を整理し、台本を作り上げる過程で、法的問題の本質を自分の言葉で説明できる力が身につきます。1 日かけて準備を行うため、班員と協力しながら創造的に学ぶ楽しさを味わえ、発表後には大きな達成感を得ることができます。

参加者の声



講義が全て英語で大変でしたが、判例や慣行に基づいて法律を理解するという、成文憲法がないイギリス特有の学び方がとても面白かったです！

判決の根拠が条文ではなく前の判例になるというのも、頭ではわかっていたつもりでしたが「判例」という形で出されると新鮮でした。

英語のテキストを読むのはなかなか大変でしたが、Jackie 先生のスライドと一緒に読んで理解を深めました。

日本で受けた事前授業で扱ったところが出てくることもあり、事前学習の重要性が身に沁みました。
逆に事前授業であまり理解できなかったところが、実際に授業で扱われて理解できたこともありました！





ただ聞くだけでなく、周りとディスカッションしたり、グループで判例を分析したりするアクティブな授業です。

基礎的な知識から BREXIT のような現代的なトピックまで幅広くカバーされており、イギリスの法制度が立体的に見えてきました。

午後の授業でも集中力を維持し、積極的に参加することで、とても実りある学びが得られました！

Guest Lecture

【Guest Lecture】

ゲストレクチャーは様々な法律分野の専門家が講義を行う授業です。一方的に講義を聞くだけではなく、講師から意見を求められたり、グループでディスカッションをしたりする機会もあります。事前に講義資料が共有されるため、予習をして授業に臨みます。ゲストレクチャーの講師の中には、話すスピードが速かったり、訛りがあったりする場合もあります。また、今まで学習したことがない分野の法律の講義を受けることもあるため、他の授業より難易度が高いです。しかし、PA がゲストレクチャーのノートを共有してくれるほか、DG（ディスカッショングループ）で直近のゲストレクチャーの内容理解を深める機会があるので、疑問点を解消することができます。

Memo

ゲストレクチャーはコーパスクリスティカレッジ外の別の建物で受講しました。しかし、カレッジからはとても近く、建物自体もカレッジが所有しているそうです。

・International Law(国際法)

国際連合の各組織から戦争、特に自衛権といった幅広いテーマで学習しました。「いかなる軍事力も許されないのか」や「拷問は絶対的に行われてはならないのか」など議論を呼ぶテーマが扱われました。全３回。

・Intellectual Property Law(知的財産法)

いくつかの事例を通して、知的財産の保護の必要性や対象によって異なる知的財産の保護方法の比較、権利として守られるための要件について議論しました。また、「AI の生成した作品の権利の帰属先がどこになるか」という問いに対して意見を交わしました。全２回。

・Gender and Human Rights(ジェンダーと人権)

様々な差別や不平等について学びました。また、「男性らしさが私たちの生活に与える弊害」についても考えました。最後には、女性の中絶の権利について裁判形式で討論を行いました。調査する人、発表する人、質問する人、討論の勝敗を判断する人に分かれ、それぞれの役割を果たしました。全１回。

・Environment Law(環境法)

気候変動の原因である温室効果ガスを減らすための国際協力についての講義でした。「パリ協定」と「京都議定書」の比較や各国際枠組みが十分に機能しているかを考えました。全１回。

参加者の声



IP 法や国際法は日本の授業でも習ったことがなく、最初は戸惑いましたが、授業を受けてみたらとても面白かったです。拷問について考えた時も、人によって意見が様々だったので興味深いテーマだと感じました。

すべて英語で授業が進むため、ついていくのが少し大変ですが、PA さんが分かりやすくまとめたものを作ってくれます。また次の日に PA さん含めて議論の場を設けてくれるので、考えを深めることが出来ました。





議論を重ねる機会が多いので、自分と違う意見を沢山聞くことのできる機会でした。授業内容はプログラム終わりのテストにも出てくるので、少しずつ復習することがおすすめです。

Court Visit

■ Court Visit とは

研修期間中には、現地の裁判所で実際の裁判を傍聴する機会があります。2 週目と 3 週目に Crown Court（刑事法院）と Magistrates' Court（治安維持裁判所）を訪問し、英国内の司法制度を間近で学びます。

なお、傍聴する審理の内容は、訪問日やグループによって異なります。

■ それぞれの裁判所

① Magistrates' Court（治安判事裁判所）

Magistrates' Court は、比較的軽い刑事事件（minor offences）を扱う裁判所です。特徴的なのは、ここで審理を行う判事が法律の専門家ではなく、地域の一般市民から選ばれる Magistrate（治安判事）であることです。

1 日に複数の事件を短時間で次々と審理していくため、実際の傍聴では効率的かつ実務的に進行する様子を見ることができました。私が参加した際も、わずか 1 時間ほどの中で 3 件の異なる審理を見学し、市民司法のスピード感や現実的な運用を体感しました。

② Crown Court（刑事法院）

Crown Court は、より重大な刑事事件（serious offences）を扱う裁判所で、Magistrates' Court の上級審にあたります。ここでは、専門の裁判官（Judge）と 12 人の陪審員（Jury）が協力して審理を行います。

裁判官が法的判断を担当し、陪審員が事実認定（有罪・無罪の判断）を行うという点が、イギリスの刑事司法の大きな特徴です。

私が傍聴した審理では、被告人やその家族・関係者が傍聴席に同席しており、緊張感と現実感のある雰囲気の中で手続きが進められていました。

■ 実際に参加してみて

裁判官や弁護士の話す英語は非常にスピードが速く、さらにイギリス特有の発音であったため、聞き取るのに苦労しました。しかし、PA の方が隣で同席してくださり、審理中は声を出せないものの、わからない点を傍聴後に丁寧に解説してくださったため、大変助かりました。

Crown Court では、実際の被告人や関係者がいる緊迫した雰囲気の中で裁判を見学でき、非常に貴重な体験となりました。

この裁判所訪問を通じて、裁判の流れや法律家それぞれの役割を理解することができ、プログラムの最後に行う模擬裁判（Mock Trial）の準備にも大いに役立ちました。外国で実際の裁判を傍聴できる機会は滅多にないため、日本とイギリスの裁判制度の違いに注目しながら参加すると、より深い学びが得られると思います。

Mock Trial（模擬裁判）

■Mock Trial とは

Mock Trial では、それぞれが裁判官、検察官、弁護士、被告人などの役割に分かれ、全て英語で模擬裁判を行います。プログラムの終盤に行われ、本研修で学んだことの集大成ともいえるイベントです。

■役職紹介

裁判では、裁判運営・管理チーム、弁護チーム、検察チーム、陪審員チーム、の４つのチームに分かれます。

・裁判運営・管理チーム

裁判官、廷吏,書記官などの役職に分かれ、公正中立の立場で裁判の運営・管理を行います。裁判官はイギリスの刑事裁判の伝統に倣い、カツラと法服を着用します。

・弁護チーム

弁護士は弁護側の証人とともに被告人の無罪を主張、または刑の減軽を裁判官や陪審員に訴えます。

・検察チーム

検察官は検察側の証人とともに被告人が有罪であることを立証します。弁護側の主張を予想して、入念に反論を練ります。

・陪審員チーム

弁護側と検察側の証拠や証言を聞いて、陪審員同士で話し合い、有罪・無罪を判断します。

■参加を振り返って

全て英語で行われると聞くと「うまく話せるだろうか」と不安に思う方もいるかもしれません。しかし、準備期間は十分にありますし、PA の方々のサポートもとても手厚いので、心配する必要はありません。Mock Trial はこの研修で学んだことをアウトプットできる最後の機会です。自分の力を試すつもりで、ぜひ楽しんで取り組んでみてください！



PA Activity and Scavenger Hunt

☆PA activity

■Punting



パンティング（Punting）はパント（Punt）という舟に乗って、長い棒を使って川底を突き、進むアクティビティです。ケム川沿いでは、King's College をはじめとする歴史的な建物が立ち並んでいて、水上ならではの美しい景色を見ることができました。また、皆で協力してボートを漕いだことは、忘れられない良い思い出となりました。



■Cream Tea

教会としても利用されているカフェでイギリス伝統のクリームティーを堪能しました。Cream Tea とは主にスコーン、クロテッドクリーム、ジャム、紅茶で構成されるカジュアルなティータイムの形式です。実際にスコーンの伝統的な食べ方や紅茶の淹れ方など、イギリスの文化を体験し、深く学ぶことができました。また、PA さんとゆっくりと話すチャンスでした。

☆Scavenger Hunt

Scavenger Hunt とは、指定されたエリア内で、様々なアイテム（物、情報、写真など）を探し集めるゲームです。ケンブリッジの街を探索しながら、市場で一番安い果物を購入したり、お店でスイーツの試食を食べたりとチームで様々なミッションに挑みました。チームワークが強まっただけでなく、ケンブリッジの歴史や名物、観光名所を巡って、学ぶ良い機会になりました。







ロンドントリップ





最初の週末にはみんなでロンドントリップに行きました。ケンブリッジからバスで２時間ほどの道のりです。丘陵の上のケンブリッジから高速道路を下っていくので進行方向奥にロンドンのビル群の街並みを眺めることができ、バスで向かっているときからワクワクが止まりませんでした！

バスを降りるとすぐ目の前にはテムズ川、そしてその対岸にはロンドン・アイが見え、それまでのケンブリッジとは異なる都会の雰囲気が印象的でした。

今回のロンドントリップでは Palace of Westminster（ウェストミンスター宮殿）と Supreme Court of United Kingdom (連合王国最高裁判所)の２か所を見学させていただきました。

ウェストミンスター宮殿内では携帯式の音声ガイドを聴きながら実際にウェストミンスターホールや上院、下院を見ることができました。宮殿内では撮影禁止エリアが多いですが一部では撮影が可能となっており、ちょうど私たちが訪れた時にはウェストミンスターホールに陽が差し込み、とても素敵な写真を撮ることができました！また、下院の前には議員用のメールボックスが並んでおり、現イギリス首相のキア・スターマー氏のポストをみんなで探したりしました。宮殿内の出口付近にはギフトショップやカフェがありお土産を買ったり、軽食を食べながら友達と休憩したりすることもできます！





ウェストミンスター宮殿を出て少し歩いて行くと最高裁判所があります。ここではガイドの方の説明を受けながらいくつかの壮大な法廷や図書館を見学させていただきました。法廷はそれぞれ内装が異なっていて装飾の説明を聞くのもとても面白かったです。

さらに、当日は PA の方々の協力のもと法廷の椅子に座って実際に起こった訴訟についてミニ裁判という形でアクティビティも行い、貴重な体験を得ることができました。



ロンドンの街並みは日本とは異なり、歴史的な洋風建築と現代建築のビル群が混在していて独特な雰囲気を楽しむことができます！特に夕方のマジックアワーから夜景にかけての光景はとても美しく、ロンドントリップ当日は予定の都合上見ることができませんが週末にロンドンに訪れた際にはぜひ目にしてほしいです！

寮の設備

今回私たちが滞在したケンブリッジ大学のボトフ寮（ボトフコート）について紹介します。今後プログラムに参加する方の参考になれば幸いです。

・寮の基本構造

ありとあらゆる扉がオートロック式になっているので鍵を常に持ち歩く必要があります。インキーした場合は PA を呼んでから、大学の守衛室まで行かなければなりません。私たちが滞在した寮は、建物が中庭をぐるっと一周する形状で 3 階建てでした。外見はジブリに出てきそうな建物です。勉強机と椅子はどの部屋にもあるので、勉強に支障はありません。

・水回り

キッチン…冷蔵庫あり。冷凍庫は２K ルームの冷蔵庫以外はなし。

あるもの / 電子レンジ、IH、オーブン、シンク、お玉類、切れない包丁

ないもの / 皿、フライパン（今年置いて行ったものがあるかも）、カトラリー、調味料

トイレ・シャワー…どちらも基本部屋にはありません。シャワールームはかなり狭いです。イギリスのトイレは流すときにレバーを押し続けないと勢いが止まります。タオル（フェイス、バス、足ふきマット）は１週間に１回程度で交換してもらえますが、使いまわしが気になる人はタオルを持っていくべきです。

ないもの / シャンプー類、ボディーソープ

あるもの / トイレットペーパー、ドライヤー（言えば借りられます。）

※水道水は飲んでも問題ありませんが、やはり味に違和感がありました。スーパーでまとめ買いするのが吉です。小さめのペットボトルは普段使いにぴったりです。

洗濯…寮内に洗濯機・乾燥機あり。

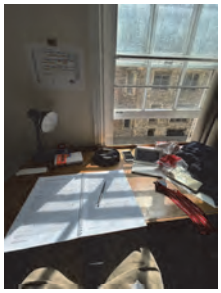
キューブ式の洗剤をもっていくとよいです。洗濯物は乾燥機で大体乾きます。

・生活

部屋ごとの個体差がかなりあります。ペットボトルが転がるくらい傾いている部屋や、配管が通っていてずっとムシムシする部屋もありました。気温は日中でも 10 度台後半ですが、どんな部屋にも対応できるように涼しめの服も用意すべきだと思います。

平日は朝昼晩のごはんが食堂で提供されますし、土日もたいてい旅行に出かけると思うので、自炊の心配はしなくて大丈夫です。コップがあると何かと便利です！

インキーした際、守衛室に行くと ”stare case ?” と聞かれる場合があります。「あなたの寮はどこ寮か？」と聞かれているので、自分の寮の名前を答えましょう。







Formal Dinner・学食

フォーマルディナーは研修期間中に３回行われました。コーパス・クリスティ・カレッジの食堂でイギリスの伝統的なディナーを経験することができます。ディナーの前にはドリンクレセプションがあり、シャンパンを片手に友人やＰＡの方々、先生方とお話することができます。

フォーマルディナーでは、前菜・メイン・デザートの３品と赤白ワインを頂くことができます。席順は毎回ランダムで、ＰＡの学生だけでなく、ゲストレクチャーの先生方が参加されることもあり、さまざまな方と会話を楽しむことができます！

服装は、男性はスーツ、女性は結婚式に参列する際のワンピース程度の装いで問題ありませんでした。夜はかなり冷えるので、長袖のワンピースを選ぶか、なにか羽織るものを用意した方がいいかもしれません。

豪華な食堂で美味しい料理を頂き、華やかに着飾った皆さんと食事をした経験はとても非現実的で素敵な経験でした！







学食は食堂で平日に１日３食利用することができます。朝はパンやシリアルが用意されており、昼と夜はメインディッシュ・サイドディッシュ・デザートが用意されていて、食べたいものを選んで自分で取る方式でした。

毎週月曜日は「ハッピーヴィーガンデー」となっており、大豆ミートなどのヴィーガン料理が提供されていて、異国の食文化を味わうことができました。

ＰＡや先生の方々も同じ食堂で食事をしているので皆さんとお話して仲良くなる良い機会になります！まるでハリー・ポッターのような食堂で日々食事をすることができてとても楽しかったです。

大学周辺情報

私たちが授業や食事の際に使用していたコーパス・クリスティ・カレッジの周りには、教会・スーパーマーケット・雑貨屋・レストラン・公園など、生活するうえでとても便利で快適な環境が整っています。また、日本で見慣れたようなお店でも、ケンブリッジ特有の歴史ある街並みや石造りの建物に囲まれることで、新鮮で一段と魅力的に感じられます。

特に週末はマーケットが開かれ、地元の食材やハンドメイドの雑貨を販売する屋台が並び、店員の方々とのちょっとした会話からも、温かい人柄や地域の雰囲気を感じ取ることができました。

さらに、ケンブリッジの町には全部で 31 のカレッジが点在しており、それぞれ建物の様式や雰囲気が異なります。授業の合間に他のカレッジを散策するのも楽しく、古い図書館や緑豊かな中庭など、どこを歩いても歴史と伝統を肌で感じることができます。

（画像は St. John’s College の正門）



留学生の１日（Week Day）

2025年に参加した私たちの、平日の1日を紹介します。
あくまで参考程度に読んでいただけたら幸いです。

07：00　起床・準備
08：00　友人と寮の中庭に集合し、食堂に向かう
08：45　1限開始　言語の授業を受ける　75分授業
10：15　2限開始　Group Discussionの授業をPAさんから受ける
（2限がない時もあるが、基本的にある）
11：30　空きコマ（3限がある場合もある）
Jack’s Gelatoというジェラート屋が近くにあるため友人と食べに行ったり、スーパーに行ったり、予習したりして各々自由に過ごす。
12：30　食堂でお昼ご飯を食べる。
14：00　3限　ジャッキー先生の授業を受ける
15：30　4限　ゲストレクチャーの授業を受ける
16：45　フリータイム
毎晩欠かさず女子会や、中庭でパーティーをしていたので、その食材や日用品を買う。（現地ではPayPayが使えないので、割り勘をする際、レシートを受け取るようにしてください！）
17：30　夜ご飯　食堂
18：30　以降、授業はないため自由時間を過ごす。
PAさん達と卓球をしたり、日本のトランプゲームを教えて一緒に遊んだり、一緒に外国のドラマを見たりして過ごす。この時間に洗濯をしたり、予習をしたりもしていた。
20：00　シャワー
21：00　みんなで団欒を楽しむ
私たちの寮にはキッチンや中庭がついていたため、そこで夜によくパーティーをしていた。空き時間はみんなと過ごしていたため、すぐに仲良くなった。
24：00　就寝

平日の放課後にPAさん達がよくイベントを企画してくださったため、毎日楽しく過ごせました！（卓球大会、アフタヌーンティー、パンティング、パブ）どれも強制ではないため、そのイベントに参加せず部屋でゆっくりする日も定期的に作っていました。
注意点：キッチンと中庭は声が響くため、騒ぎすぎないように注意してください。

留学生の１日（Day Off）

次は、休日の１日を紹介します。実際に行った場所をできるだけ詳しく紹介します！

ロンドン

09：00 寮の中庭に集まり、駅へ向かう

11：00 ロンドンに到着しフォートナム&メイソンでアフタヌーンティーをする

15：00 ナショナルギャラリーで実際のゴッホやモネの作品を鑑賞し、お土産を買う
（個人的にナショナルギャラリーは行く価値があると思います。無料です！）

18：00 ビッグベンを見る

22：00 帰宅し、友人と部屋でカップラーメンパーティー

ロンドンは観光地が点在しているため、バスもしくは自転車をレンタルすると楽です。

スコットランド

05：30 中庭に集まって駅から空港へ向かう

09：00 エディンバラに到着（スコットランドはケンブリッジより寒いです）

11：00 荷物を預けた後、セント・ジャイルズ大聖堂に向かう

13：00 The Milkman で軽食

14：00 エディンバラ城に向かいながら散策（ケンブリッジと風景が異なるため、歩くだけでも楽しいです）

19：00 エディンバラ城を散策した後、夕食

20：00 カールトン・ヒルで夜景を楽しむ

22：00 ホテルに帰宅

カールトン・ヒルとディーンビレッジはおすすめなので、ぜひ行ってみてください！

ケンブリッジ

11：00 寮の中庭に集まり、近くのケンブリッジ大学植物園を散策

13：00 食べ物をテイクアウトし、公園でピクニック

15：00 大学周辺のお土産屋でお土産を購入　（お店によって金額が異なるため注意）

17：00 寮の中庭で勉強（お店で購入した果物などを食べながら教え合いました）

21：00 夕食後、卓球室で友人と卓球や雑談

22：00 ジェラートを食べに行く

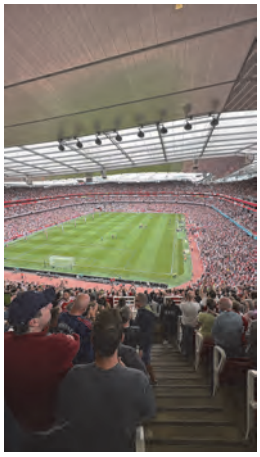
23：00 帰宅後、友人の部屋で雑談や予習

平日の疲れも溜まっていると思うので、ケンブリッジでゆっくり過ごす日を作るといいと思います！

週末旅行記

留学中の週末に訪れた場所を紹介します。

■ロンドン




ケンブリッジからは電車で１時間～１時間半ほどで着きます。ビッグベンはもちろんのこと、バッキンガム宮殿やウエストミンスター寺院といった歴史ある建物がたくさんあります。
また、文化の街でもあり、ビートルズのアルバムで有名なアビーロードや「キングスマン」「ノッティングヒルの恋人」など有名映画のロケ地にも行きました。その他、プレミアリーグのサッカーの試合も観戦しに行きました！！

ロンドンは共有自転車が充実しており、私は地下鉄やそれで移動することが多かったです。
もちろん、歩いても街中が映画のようで楽しいですよ！！
※ただし、地下鉄がストライキによって運休になることもあるのでその点は注意です。

■ストーンヘンジとオックスフォード






２ヶ所にバスツアーで行きました。ストーンヘンジはロンドンからバスに乗って１時間半ほど、オックスフォードはそこからバスでまた１時間半ほどで着きます。前者は世界遺産にも登録されている世界でもっとも有名な先史時代の遺跡です。実際に行ってみると厳かな雰囲気を感じて素晴らしかったです。後者は、ケンブリッジと並ぶイギリスの超名門校。映画「ハリーポッター」シリーズのロケ地としても有名で、町が芸術のように美しかったです。

お勧めレストラン



コーパス・クリスティ・カレッジの周辺には、おしゃれで落ち着いた飲食店が多く、学びの合間に立ち寄れる魅力的なスポットが数多くあります。

中でもおすすめなのが、地元でも評判のジェラート店「Jack’s Gelato」です。季節ごとに変わるフレーバーが特徴で、素材の味を生かした濃厚で上品な甘さが楽しめます。晴れた日には、ジェラートを片手に近くの公園で友人と語らう学生の姿もよく見られます。

もう一つの人気店は、本格イタリアンカフェ「AROMI」です。イタリア直輸入の食材を使ったピザやフォカッチャ、エスプレッソが人気で、店内はいつも活気にあふれています。



さらに、ロンドンでも有名なステーキハウス「Flat Iron」では、質の高いステーキを手頃な価格で味わうことができ、少し特別な日の食事にもぴったりです。歴史ある街並みを歩きながら、こうした多彩な料理を楽しめるのはケンブリッジならではの魅力であり、学びだけでなく、日常のひと時にも豊かさを感じられる環境だといえます。

また、レストラン以外にも、パブやバーなどが複数あり、フォーマルディナーや模擬裁判の後には、先生や PA（プログラム・アシスタント）さんにおすすめのパブへ連れて行っていただき、仲間だけでなく現地の人々との交流を楽しむこともできました。



交通機関



■イギリスの交通機関の特徴

イギリスの鉄道やバスを利用する際は、予め定められている保守点検やストライキによる運休計画をチェックすることが非常に重要です。日本でも工事による計画運休は近年目にすることがありますが、それに加えてストライキによる運休が発生します。実際、2025 年度の研修期間中にもチューブ（ロンドンの地下鉄）でおよそ 1 週間にわたりストライキが行われました。

さらにケンブリッジからロンドンに向かう鉄道においても工事による運休が行われ、一部区間でバスによる代行輸送を利用することもありました。

授業の無い日に公共交通機関を利用して外出する際は、予め交通機関のホームページを確認することを強く推奨します。

■支払い方法

日本で鉄道を利用する際、Suica や ICOCA などの交通系 IC カードを利用することが多いかと思います。しかしながら、イギリスの鉄道ではアプリを通じて事前に乗車券を購入することが大半です。当日に購入すると非常に高額となるので、極力前日までに購入しておくとお財布面でも安心です。なお、路線バスとチューブではクレジットカードのコンタクトレス決済が利用可能であるため、カードさえ持ち合わせていれば気軽に利用できます。バスとチューブの運賃は平日・休日ともに同額のため、カードを利用して乗車することを推奨します。

先述の路線バスとチューブを除いたイギリスの鉄道では、平日と休日で価格が大きく異なることが大半であるため、予め「Trainline」等のアプリで乗車券を購入しましょう。

トラブル対応



海外では時として文化の違いからトラブルに巻き込まれることがあります。スリなどよくあるトラブルとその対処法について紹介します。

イギリスでは電圧が日本と違い 220～240V で、プラグは BF 型が使われています。ほとんどの電子機器は変換プラグを使えば問題なく使えますが、中には電圧が合わず危険なものもあります。出発前に必ず説明書をチェックしておきましょう。もしトラブルが起きたときは、自分で対応せずにコーディネーターや PA にすぐに相談してください。

お店での支払いは基本的にキャッシュレスで、VISA カードが使えるお店が多いです。JCB などは使えないこともあるので、カードは 2 枚以上持っておくと安心です。

ケンブリッジ周辺は治安が良いですが、スリやひったくりには注意が必要です。高価なアクセサリーは身に着けない、携帯電話やカメラは歩きながら使用しないなど常に対策をしておきましょう。加えて、夜遅い時間の一人歩きは避け、パブなどでのしつこい声掛けにも気をつけましょう。複数人で行動することで、これらのトラブルのリスクを下げることが可能です。

安全に気を配って、楽しく充実した留学生活をお過ごしください。

事前学習での学び・感想

■事前学習の概要

ケンブリッジ大学夏期法学研修に参加するための事前学習として、留学基礎講座 Bl と留学基礎講座 Cl の授業を受講しました。前者は決められたテーマについて英語でディベートをする授業で、後者は、イギリス法やその法制度についての基礎知識を学びます。

■留学基礎講座 Bl

留学基礎講座 Bl では、parliamentary debate を通して、法律上争点がある事柄についてグループに分かれてディベートを行いました。事前準備も重要ですが、相手の主張に即興で反論したり質問に答えたりすることで、柔軟性を養うことができました。これにより、論理的に説明する能力、事例の要約、反論、批判的思考力が身に付きます。特にケンブリッジ大学夏期法学研修の最後に行われた模擬裁判では、留学基礎講座 BI で培った臨機応変に答える能力や批判的思考が大いに役に立ちました。

■留学基礎講座 Cl

留学基礎講座 Cl では、イギリスの法律および司法制度、特に刑事司法制度について学習しました。講義を通じてイギリスの司法制度の基礎的知識を習得するとともに、英語の法律専門用語も修得しました。日本とイギリスの法制度の比較を行うことで、イギリス法の特徴をより深く理解することができ、日本法について英語で説明する力も身に付きました。各受講者は自身の関心に沿った個別研究テーマを調査し、その内容を英語で作成・発表します。実際にイギリスの judicial office が発行する法制度ガイドをグループごとに分担して概要をまとめ、日本の法制度と比較したり背景や詳細を調べたりして互いに報告しました。この授業は受け身で講義を聞く形式ではなく、興味を持った分野について積極的に調査することで知識が定着し、自分の言葉で説明する力も養うことができる授業です。

■その他

上記事前学習のほかに、研修前と研修後に TOEIC speaking & writing テストを受験することが必要です。この試験はオンラインで受験する IP テストでした。

■総括

今回の研修を通して、イギリス法および日本法の理解を深めるだけでなく、求められていることを英語で説明する能力や論理的思考、批判的思考を身につけることができました。模擬裁判や現地での裁判傍聴を通して、それらの能力の重要性を深く実感しました。

参加したきっかけ

ケンブリッジ研修からおよそ２カ月がたった今、振り返ってみるとイギリスで過ごした１か月は間違いなく人生の中で最も強烈で、鮮明なものでした。

私がケンブリッジ研修の存在自体を知ったのは、１年生の入学時に行われた新入生ガイダンス(2025 年度は実施なし)です。そこでは実際に昨年度ケンブリッジ研修に参加した先輩方がケンブリッジでの授業や現地での様子を発表されていてプログラムの存在を知ると同時に興味を持ちました。ただ、当時は海外で１か月も勉強するなどまったく考えておらず、英語力も受験勉強で身につけた程度でした。

私は将来弁護士になることが目標で、夢に直結する司法試験に向けた学習を大学在学中に進める必要があります。しかし、せっかく大学に入ったのならば、将来に直結するかどうかで学ぶ範囲を狭めるべきではないなと思い、司法試験には必ずしも必要ではないものの、当時自分が興味を持っていた法史学や諸外国の法体系などを勉強したいと思いました。イギリスでは､判例が日本以上に重要な意味を持ちますが､法がどのような体形で構成されていて、日本との差異はどこにあるのか、また１・２年では学ぶ機会がなかった EU 法やイギリスの法の歴史が学べるこのケンブリッジのプログラムは、まさに自分に最適だと思いました。

さらに、英語が必要とされる機会が今よりも一段と増える昨今で、法律という専門的なフィールドで用いる、より高度な英語を学ぶことは将来の自分の可能性を広めてくれると思いました。このプログラムは１カ月間すべての授業を英語で受けるので、自分で勉強するのには限界のあるスピーキングの強化にも役立つと考え、語学力向上の面からも参加を決意しました。

私はいつも、やりたいことがあっても一歩を踏み出すことができず、安全な選択をしてしまうことが多くありました。しかし、参加を迷っていた際、昨年度の研修報告書に載っていた「行動し実際にやってみることの重要さ」という言葉にとても共感し応募を決めました。

そして今振り返ると､ケンブリッジではその瞬間にしかできない貴重な経験が数多くあり、「行動し実際にやってみることの大切さ」を身をもって実感することができました。この研修に参加して本当によかったと心から感じています。





次年度参加者に向けて

研修に参加する前は、事前学習として設定されていた留学基礎講座で、他の参加メンバーの英語力の高さに圧倒され、自分がケンブリッジでうまくやっていけるのかとても不安でした。さらに、イギリスという新しい環境に対する緊張が強く出発の前日は、緊張や高揚感からうまく眠りにつくことができないほどでした。しかし、イギリスに到着し、研修が始まってしまえば、壮大すぎるケンブリッジの街並みや雰囲気に圧倒され、緊張や不安などは吹っ飛び、見るもの聞くものすべてが新しく非現実的な毎日でした。

授業の初回はとても緊張しましたが、どんなに拙い英語でも最後まで真剣に耳を傾け、理解できるまで何度も丁寧に説明してくださるケンブリッジ大学の先生方、そして自分の考えを積極的に発信する周囲の留学メンバーのおかげで、次第に間違いを恐れず発言できるようになりました。

この研修では、話し合いやディベートが数多く設定されており、それらを通して多様な考えに触れ、自分の意見を伝える力も養うことができました。また、1か月間同じ寮で生活を共にしたことで、参加メンバーとの距離が一気に縮まり、多くの刺激と学びを得ました。

寮では、次の日も朝から授業があるのに寝ずに朝まで話したり、授業の分からないところや英語が理解できないところはメンバー同士で質問しあったり、人権を扱った授業の後は授業内容について授業終了後も話し合うなど、本当に有意義で忘れがたい経験をたくさんしました。もともと人前で積極的に発言するようなタイプではありませんでしたが、自分の考えを明示することへの抵抗感がなくなり、多くの視点や考えを吸収し自分に還元することができた一か月間だったと思います。留学を通して自分を変えることができるかどうかは、その人自身の努力や姿勢次第だと思いますがケンブリッジでの1か月間には、間違いなく自分を変えるきっかけが無数に転がっていると感じます。

この研修は、国際法に興味がある人はもちろん、少しでも留学に興味がある人にもぜひ参加をお勧めします。参加費用は決して安くなく、不安や懸念があるかと思います。しかし、大学在学中に、ケンブリッジで1か月間全力で学び・活動することは貴重であり、何物にも代えがたい経験になると思います。ぜひ、研修に参加してみてください。





次年度参加者にむけて

■Sharp 先生（プログラムディレクター)

Dear Students,

Welcome to the Meiji and Ritsumeikan Legal Studies Abroad Programme at Corpus Christi College, Cambridge. For hundreds of years, people have come to Corpus to learn, think, and share ideas. This summer, you will walk the same paths and become part of this long story. We look forward to welcoming you!

At Corpus Christi College, you will explore the English legal system through real experiences: visiting legal institutions, joining group discussions, and taking part in a mock trial. You won't just study English in a classroom. You have to find ways to use English to solve problems and overcome challenges every day, both academic and social.

Along the way, you will share your views with Cambridge students, debate with inspiring lecturers, and talk to local people on trips around the UK. These conversations will open your mind to new ways of thinking about law, the world, and yourself.

By the end of the programme, you will notice a change. You will speak with more confidence, see problems from new angles, and carry with you friendships and memories that will last long after the summer ends.

When you return to Japan, you will find that you see the world, and yourself a little differently. Perhaps a summer in Cambridge is the first step to a 'new you'!

With warm regards,

James Sharp
Programme Director

フォトスペース













フォトスペース













フォトスペース















2025 年度研修実施概要

・期間
2025 年 8 月 16 日～9 月 11 日

・参加人数
20 名

・参加費用
約 110 万

・単位認定
法学部設置科目「Legal Studies Abroad AⅠ・AⅡ」4 単位。
→法曹コースでは「自由選択科目」、その他のコースでは「コース専門法律科目」の扱い。

応募資格
・本学学部の 2～4 年生及び大学院生(4 月時点)で法学研修の授業に参加し得る英語力を有する者。
・「明治大学法学部ケンブリッジ大学コーパス・クリスティ・カレッジ夏期法学研修参加申込誓約書」に合意していること。

応募から帰国の流れ

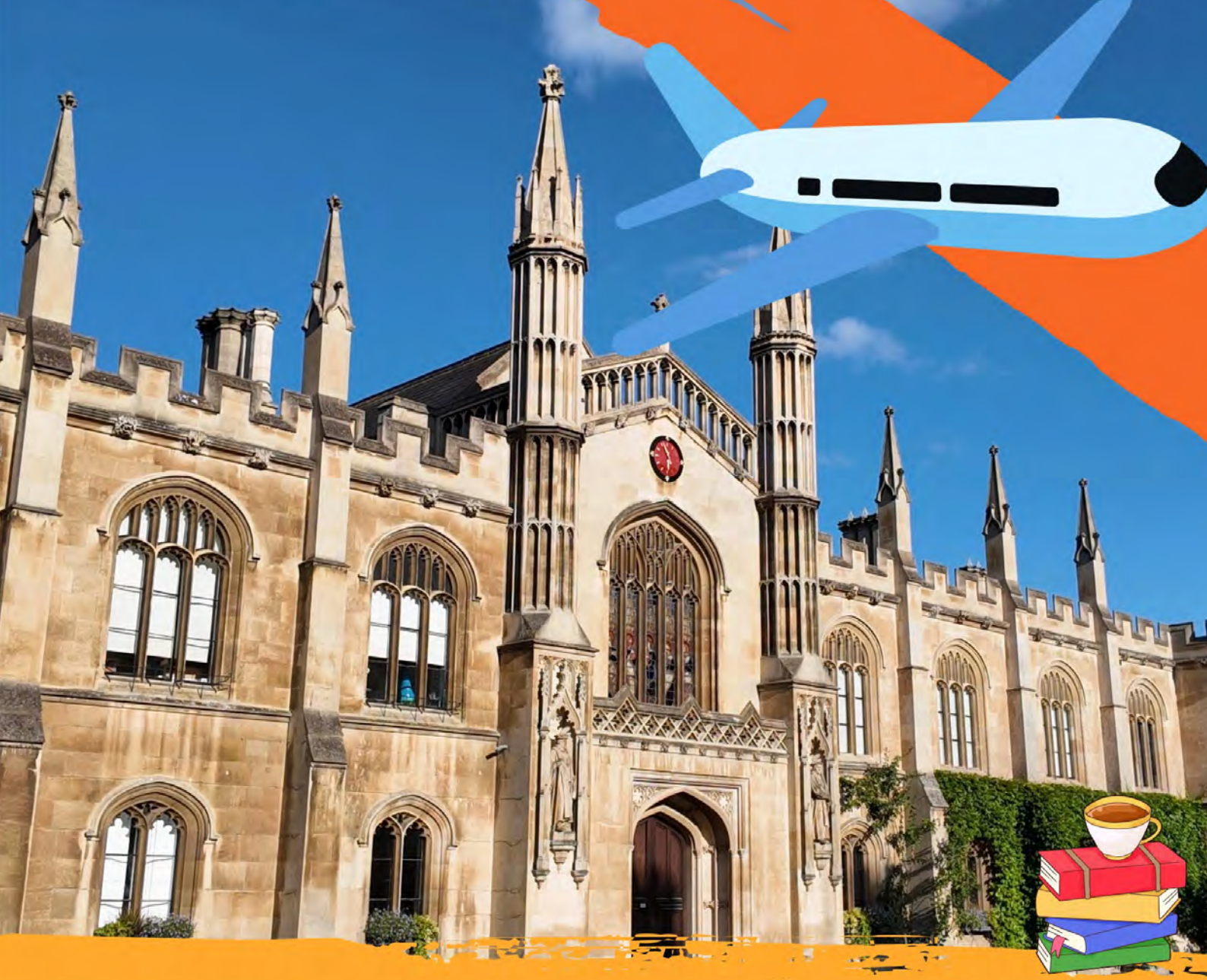
募集期間	12 月 25 日～3 月 13 日
面接日	3 月 24 日
選考結果発表	3 月 25 日
第１回オリエンテーション	4 月 25 日
第２回オリエンテーション	5 月 23 日
TOEIC　S&W テスト	6 月 11 日～6 月 17 日
第３回オリエンテーション	6 月 30 日
第４回オリエンテーション	7 月 11 日
研修期間	8 月 16 日～9 月 11 日
帰国後報告会	9 月 16 日
TOEIC　S&W テスト	9 月 17 日～9 月 23 日

編集後記

最後まで読んでいただき、ありがとうございます。編集を通じて、あの一か月の出来事を思い返すたびに、学びや出会いの多さに改めて感謝の気持ちが湧きました。先生方や、PAの方々のサポートのおかげで安心して挑戦できたことを強く覚えています。この留学は、新しい自分に出会える素晴らしい機会です。ぜひ次の皆さんにも体験してほしいです。

ここまで読んでくださり、ありがとうございます。記事を編集しながら改めて、この留学での経験の豊かさを実感しました。ケンブリッジでの学びやロンドンでの時間はどれも新鮮で、現地の先生方やPAの方々の温かさに支えられた日々でした。このプログラムは、英語力だけでなく多くの気づきを得られる貴重な機会です。次年度の皆さんもぜひ参加してみてください。

最後までお読みいただきありがとうございます。ケンブリッジで過ごした一か月間は何ものにも代え難い経験となり、様々な面で大きく成長する機会となりました。先生方、PAの方々、そして共に学んだ皆さんに心から感謝しています。参加を迷っている方は、ぜひ勇気を出して飛び込んでみるべきだと思います。きっとその価値を実感できるはずです。



発行：明治大学法学部

https://www.meiji.ac.jp/hogaku/cambridge



